

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット／1階ユニット)

事業所番号	2792000487		
法人名	(株)ハートコーポレーション		
事業所名	グループホーム我孫子		
所在地	大阪市住吉区我孫子5-11-3		
自己評価作成日	令和4年 10月12日	評価結果市町村受理日	令和4年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年 11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとに施設の庭を整備し、綺麗に咲いた花を入居者様と眺めながら、ゆったりした時間を過ごしています。コロナ感染拡大の状況を確認しながら、日課としている体操や、近所の公園へ出かける散歩は皆様の楽しみでもあります。毎月のレクリエーションでは、季節の壁画作りやおやつつくなどの他、お花見(今年は施設内で楽しみました)、夏祭り、敬老会、クリスマス会など行事も創意工夫しながら実施しています。
入居者様一人一人の個性と尊厳を尊重しながら、地域に根ざす施設作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して18年を経過した事業所で、内部は明るく気持ちが良い。玄関には、利用者が散歩時に被る帽子が人数分籠に入れられて置かれ、日課である散歩を雄弁に語る。コロナ禍で条件は厳しいものの、家族の要望に応じてお便りの新企画を始めたり、福祉の専門学校生を実習生として受け入れるなど前向きな努力が行われている。1階の庭にある花壇の水やりを誰がするかという些少な一事を巡っても、職員間でよく話し合い齟齬する互いの主張を折り合わせて結論を出し、結果として花壇は維持されている。花壇の花は、今春、コロナ禍の為、恒例の桜の花見の代役を担った。イベントの弁当を手作りする職員・日常のケアの細部まで熟知した職員など個々の能力が発揮されると共に、管理者を中心にチームでまとまって前に進もうとする姿勢がうかがわれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(1階フロア)【2ユニット総合外部評価結果】 [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの中には理念を把握・理解していない様に思います。	法人理念と共に事業所独自の理念「ゆっくり・一緒に・楽しく」を事務所や玄関等に掲げている。職員会議の議題の冒頭に理念を記し意識付けをしている。また管理者は、理念を言葉だけに終わらせず、日常の業務に追われてもすれば忘れがちな余裕を皆が取り戻しゆっくりケアに取り組むことで、より上質のケアになることを目指したいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大の影響により、地域での行事の中止などで交流できる機会がなかった。	恒例の地域の敬老会行事も今年は中止され景品だけが届いた。町会に入会し、運営推進会議には民生委員が参加している。今後、これらを糸口に地域と繋がっていける可能性はある。コロナ収束後には、カフェのような形で事業所を地域にオープンにして繋がっていきたいと管理者は希望し、事業所の介護力が地域でも重宝されると考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染拡大の影響により、地域の人々に発信する機会がなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大の影響により、運営推進会議も文書での報告が主になっているが、その中で頂いた意見や意向は参考にさせて頂いている。	運営推進会議(構成員は地域包括支援センター職員、知見者-マッサージ治療院、民生委員、家族)はコロナ禍のため書面での会議とし、各々の意見を貰っている。その意見に、面会もできないので利用者の様子を知りたいという家族からの要望があり、写真付きの近況を知らせるお便りを企画作成して、介護計画送付時(6ヶ月毎)に同封している。	地域の人脈を更に広げ運営推進会議を通じて連携していく努力が望まれる。また、運営推進会議録を家族に送付して事業所の活動を知って貰うよう期待する。更に、その送付時(2ヶ月に1度)には、現在実施している個人の写真付きのお便りを同封して家族に安心して貰い信頼関係を築いて行くことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所生活支援課のケースワーカー等との協力関係は築けている。	公的扶助受給者も数名いるので、生活支援課とは密接に連絡をとっている。また、該当の利用者への面談時には、ケースワーカーと情報交換を行って連携を図っている。区役所に出向く時も相談をかけることがある。社会福祉協議会の金銭管理サービスを利用する人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①玄関の施錠は難しいが、身体拘束は1件も発生していない。 ②身体拘束に当たらないケアを常に確認しながらケアにあたっている。	身体拘束禁止委員会(参加は管理者・ケアマネジャー・職員)を3ヶ月に1度開催している。初歩的な拘束事例も初心に帰って学び直している。また、身体拘束に対する意識を高め、啓発して防ごうとする意欲は高い。家族の了解のもと転倒防止のためのセンサーをベッド足下に据え、振り返りと改善を継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①全スタッフに定期的な研修を実施している。 ②痛くない介護を目指し、ゆっくり丁寧にすることを心掛け、介助の方法などの検討を管理者とも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①成年後見制度の利用をしている入居者もおられる ②法改正等、日々の勉強が大事だと考えるので、自己にて勉強してスタッフにわかりやすい説明が出来る様に取り組みたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明して納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族様にアンケートを実施している。	コロナ禍で対面の面会ができない期間は、オンライン面会を行なった。通院に付き添う家族から、近況を知らせる事業所のお便りへの喜びの声を貰い、それも励みとなってお便りも継続作成している。必要な物品を届けに来た家族や、ショートメッセージを利用して連絡を取り合う家族などからの意見にも耳を傾けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議・2か月に1回の本社会議などで意見を聞き、随時検討している。	管理者は半年に1度の面接で職員の意見を聞くがそれ以外にも必要に応じて職員と話合いをしている。職員用自転車置場改良に関する職員からの要望に、管理者が法人と折衝したこともある。日用品の在庫管理や利用者の薬剤管理など職員が役割分担している。職員はフロアリーダーに相談しやすく、フロアリーダーは管理者とよく連携している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員登用など、積極的に進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づいて全スタッフに研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でもあり交流する機会はないが、ネットワークや勉強会など開催している所の情報を得ながら積極的に参加する意欲はある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①ADLの情報を参考に初回での様子、日々の変化、喜怒哀楽などの様子観察をしている。 ②入所して暫くは本人の望みを確認する努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所を希望する理由や、入所に至った経緯を把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談の時には他のサービスを検討することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①介護スタッフの業務を利用者に手伝ってもらっている。 ②利用者様と信頼関係を作ってから色々相談しながら住みやすい環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時に家族の同伴を求めたり協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に交流のあった方が、面会に来られることがあり、対応している。	入所前に舞踊の師匠をしていた利用者にはかつての弟子の面会があり、別の利用者には友人からコロナ禍で面会が可能かどうかの問い合わせもある。家族から届いたプレゼントを喜び、お礼の手紙を書こうとする利用者には手紙が出せるよう支援している。1階と2階の行き来は、馴染みの利用者・馴染みの風景とは異なる場として気分転換になる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①個人の楽しんでいる様子、暇を与えていないか等考えて行動している。 ②日中ほとんどの利用者がリビングで過ごされ、日常的に会話を楽しまれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、家族との交流はなくなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	殆どの入居者様は希望・意向の確認はできていない。	趣味を持つ利用者などはその話題を介して意向を確認できるが、会話が成立しない利用者も半数ほどおり、意向の確認が難しいこともある。そんな場合も、日常の折々に見られる表情で好みや喜びを推し測り、スタッフ会議で出し合い共有している。また、介護計画の送付時に記入して貰った家族の希望も大切に本人理解につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活については全員確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①毎月担当ケアマネがモニタリングを行っている。 ②様子観察し、記録や申し送り、カンファレンスなどで話し合い改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師や看護師の意見を取り入れて作成している。	介護日誌以外に、申し送りノートや生活管理票(利用者個々の1日の記録)などを参考に、サービス担当者会議(参加は管理者・ケアマネジャー・職員)を毎月行っている。モニタリングを毎月行い、介護計画は短期6ヶ月長期1年を目途に作成している。必要があれば臨機応変に見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活管理票への記録や申し送りノートなどに残り生活・排便・睡眠などのリズムの把握をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用した実践はない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	希望があれば外部受診を行っている。	入居時の説明で全員が協力医療機関の在宅療養支援診療所の医師をかかりつけ医として月2回の訪問診療と必要時の往診を受け、希望者が週1回歯科医の訪問診療を受けている。他の専科受診は主治医の指示の下概ね事業所が対応している。救急搬送はかかりつけ医の協力でスムーズに行われ、家族・事業所ともに不安が無いとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的判断は常に、訪問看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	サマリーを作成したり情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に意向の確認と説明を行っている。	入居時に重度化や終末期対応について説明し同意を得ている。主治医・家族・事業所で状態変化に応じての話し合いの下で確認をとり対応に当たるとしているが、看取りの経験はない。在宅医療に携わるかかりつけ医の存在は心強いものがあり、マニュアル作成と研修の実施で重度化や終末期対応の強化に努めるとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	①計画に基づき、研修を行っている。 ②社員が判断や指示をして率先して行動を起こすようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①災害対策研修を行い、地元自治会の方に対し緊急時は援助して頂くよう依頼している。 ②水や食料の備蓄をしている。	春季と秋季の2回、計画表に基づき自主訓練を行っているが、夜間想定については未実施である。一般的な災害マニュアルと水・食料の3日分の備蓄はある。コロナ禍もあり地域との協力体制作りは今後の課題とする。管理者が行政による災害ボランティア研修に参加している。地震用のヘルメット支給の申請で、近時に納入の予定がある。	近年の自然災害の頻発に備え、当事業所の実情(地理的・構造上・利用者状態・職員体制など)に合わせた災害対策作りと、それに沿った複数回の訓練実施(特に夜間想定)、インフラ停止想定 of 生活体験、地元との協力体制づくりを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方の対応で適切でない場面がある。 なぜ、適切でないかなどを時間をかけて考えるようにしている。	トイレ介助時や朝夕の着替え時の不適切な言動、普段のぞんざいな言葉使いにどう気づくかを課題としている。その人の人生の中で培われた誇り、大切にしてきたものを理解することが、尊重とプライバシーの確保に繋がるとを習得するのに時間を掛けたいとしている。管理者自身がパーソンセンタードケアを学び直すとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選んで頂けるような声掛けを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先でかかわっていることが多い。声掛けをして出来る事はすぐ実践する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容時に清潔保持が出来るように支援しているが、現状同じ服を2～3着で回していることが多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	①食事の準備はすべてスタッフがいきスタッフと利用者は別で食事をしている。 ②食の好みを把握し、残すことのないように取り組む。利用者に合わせて食事形態を検討している。	昼・夕食は、隔日毎に届く法人の栄養士監修によるものを温め、炊飯と汁物・サラダを各階で手掛けて提供している。朝食はパン・乳製品・果物(缶詰)で、汁物の具材と共に調達している。季節にあわせての行事食が届けられ、月1回のイベントに添えてのおやつ作り、各自の誕生日ケーキを楽しんでいる。検食を1・2階ひと月交代で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①摂取量は管理と記録を行っている。摂取量が少ない時は、好きなものを買って食べて頂いている。 ②定期的な血液検査などで栄養状態の確認を行いエンシュア等の処方で行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に時間を決めて排泄介助の支援を行っている。	車イスでも立位可能な人は2人介助でトイレで排泄をとっているが、職員の体力の限界もありベッド上でのおむつ交換もあるとしている。4・5人の自立者以外は、昼・夜間とも細心の注意で声掛けしての支援としている。おむつで退院後に本人と職員の努力で紙パンツに改善の事例は、職員のモチベーションアップに繋がったとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便コントロールを行い、自然排便が出来るよう促している。出来ない場合は内服薬の追加で様子観察する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決まっており、個別での対応は出来ていない。	週2回を基本として、浴槽の湯は足し湯で、衣服の着脱と浴室内介助は2人体制で安全を図っている。入浴拒否者には無理強いせず、誘導を工夫して対応している。座位が保てる人以外は止むを得ずシャワー浴としており、入浴剤は香りを楽しむ程度に使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本人が希望すれば、昼寝をして頂いたり起床時間をずらしたりして対応している。具体的に内服薬の服用や適度な運動などが出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に精神薬の服用については、話し合いを行い、往診医と連携して決定している。往診医の指示に従い、薬情報の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①出来る事の手伝いをして頂いたり、本人の以前からの趣味(編み物など)を楽しんでいただいている。 ②ラジオ体操・カラオケ・散歩等を取り入れているが、毎日出来ていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でもあり殆ど外出は出来ていない。	コロナ禍の3年ほどは、買い物に公園や神社、季節に合わせての外出支援は休止状態である。各人の状態に合わせての周辺散歩は日課として行い、重度者には日光浴を心掛けている。通院時のドライブしか楽しみがないとする。コロナ禍の情勢の終焉を希求している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①一部の人しか現金を持っていない。自己管理の場合は紛失やトラブルの懸念もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やオンライン面会を行う事が出来る。個別に携帯電話を所持している人には、通話時に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁画作りを行っている。	1階はテラスに、2階はベランダに通じてのリビングは通風・採光ともに良く、壁面は皆で作った季節感のある作品やレクリエーションでの個人の作品で彩られている。各人の性格や行動力に合わせてのテーブル配置で、乾燥に留意し、居心地よく清潔に過ごせる生活の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士の席を近くに置き、孤立しない工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを用意して頂くように依頼している。	ベッドと幅60センチほどの収納箇所が既設され、馴染みの調度品、趣味の品々、家族写真などが暮らしの場を覗かせている。筆筒を部屋の間仕切りにしてのベッド、長年愛用の机に新聞・書籍と椅子が、往年のキャリアウーマンを思わせる風景もある。全盲の人や認知症の症状に配慮してのシンプルながら落ち着いた居室も見受けた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①バリアフリーであり手摺を設置している為安全である。 ②転倒のリスクのない居室、安心して過ごせるよう居室内の配置を工夫している。		